

総括評価表

平成24年度

徳島県立城内中学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * () は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中高生の関係は良好である。	評価指標 「中高生はお互いに刺激しあって、本校を活性化している」と答えた生徒・保護者・教職員が60%以上。	評価指標による達成度 「中高生はお互いに刺激しあって、本校を活性化している」と答えた生徒62%(+11)、保護者76%(-1)、教職員50%(-13)	総合評価 B (所見) 中学生と高校生との関係は良好であり、活性化に役立っていると捉えているが、教職員の評価は低い。このことは、中高合同の行事等の企画運営が、高校生主体で行われており、中学生の関わり方を改善していく必要性を感じているものと考えられる。	①中高一貫教育について保護者の評価は高いが、教職員の評価の低さは、現状を厳しく受け止め、改善への意識を強く持っていることの表れだと期待し、この思いを形あるものにしてほしい。 ②中高合同の行事はもちろん、授業においても今以上に中高職員間の連携を図り、連帯感や相互理解が深まるように、交流を進めていく。
		活動計画 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う。	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③美術部や弓道部など12部で合同練習を行った。		
確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。 (下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	評価指標 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒75%(+2)、保護者85%(+2)、教職員93%(-7)	総合評価 A (所見) 学力推移調査において、各学年の生徒に学力向上の状況が見受けられた。生徒・保護者も一定の評価を示しており、日常の授業が生徒の学力向上につながっていると考えられる。さらに一人一人の状況を把握し、学力の定着が十分ではない生徒に対しては、個別の対応を行う必要がある。また、各種検定も成果をあげており、今後も継続していくことで、学力向上の効果が期待できる。	①教員は「生徒の学力を伸ばす教育を行っている」「わかる授業をめざして取り組んでいる」という項目について、保護者、教員とも評価は高く、今後も生徒の学力向上をめざして一層努力してほしい。 ②中高教員が相互に授業を見ることは、指導力の向上・改善につながるため、さらに推進してほしい。 ③生徒による教員に対する授業評価を真摯に受け入れ、授業の改善を行う。また、生徒への学習評価を各学期ごとに実施するようにし、生徒自身がPDCAサイクルによる学力向上を図る一助とする。 ④高校教員や高校生、卒業生、また外部講師による進路についての説明、アドバイス等が受けられる機会をさらに増やし、早い段階から中高6年間での進路の意識を醸成させる。
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年10回実施した。また、10月には、校種を超えて授業参観する機会を設けた。 ②授業評価を、年間2回実施した。 ③漢字検定(1回)、数学検定(2回)、英語検定(2回)をそれぞれ実施し、ほぼ全員が受検した。 ④総合的な学習の時間、体育科、音楽科などで外部講師を活用した授業を実施した。		

総括評価表

平成24年度

徳島県立城内中学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * () は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) 全ての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒77%(+2)、保護者88%(+1)、教職員71%(-13)	総合評価 B ----- (所見) 人権尊重の精神は、全ての教育活動の基盤である。人権に配慮した指導に関して、教職員自身の評価が前年度より低下したことをしっかりと反省した上で、教育活動を行う必要がある。また、生徒が自他を大切に思う心や態度についても教職員の評価が低い。ただ、これは教師が鋭い人権感覚で生徒の言動を注視しているからでもある。その場面を見逃さず指導していくことが大切である。	①子どもたちは、様々な手段で情報を手に入れるが、その中から正しい情報を見極める力や、論理的に思考し判断する力を身につけられるよう指導をお願いしたい。 ②子どもに対する保護者の影響力を考え、PTAが主体となって、保護者への人権教育啓発活動を行ってはどうか。
	(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒78%、保護者88%、教職員64%		
		活動計画 ①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権問題意見発表会の実施。 ③人権問題講演会等の実施。 ④職員研修の充実。 ⑤学校生活に関するアンケート調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施し、事前・事後の研究会を実施した。 ②人権教育意見発表会を実施した。 ③3年生を対象に、人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の職員研修会を2回、実地研修会を1回実施した。 ⑤いじめや体罰はもとより、学校生活での悩み等について、アンケート調査を学期に1回実施し、生徒理解に努めた。		①教師自身が自己の言動を常に省み、人権尊重を基盤とした教育活動を展開することにより、生徒とともに、差別やいじめを絶対に許さない学級・学年・学校づくりを推進する。 ②定期的なアンケート調査の実施により、生徒の悩みや問題等を把握し、迅速に対応できる体制を学校全体対で進める。 ③教室での学びだけでなく、人権意見発表会や講演、人権映画鑑賞等を通して、様々な思いを受け止めるとともに、行事等での体験的な活動により、仲間を大切に思う心や態度を育てていく。
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が70%以上	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者75%(-2)、教職員79%(-5)	総合評価 A ----- (所見) 基本的な生活習慣の確立については、いずれの評価指標についても、その達成度は高く、実際に学校生活の各場面で、生徒は規律ある行動をとることができている。今後も挨拶の励行、整理整頓、時間厳守等を行うことで、お互いに気持ちよく学校生活が送れることを実感させ、基本的な生活習慣を身につけておくことは、学校を卒業し実社会に出たときに、もっとも大切な要素の一つになることを理解させていく。	①学校を訪れると、気持ちの良い挨拶をしてくれるなど、基本的な生活習慣が身についていると思われる。それを基盤として、いろいろな場面で自己判断・決定ができるような、自立した生徒の育成を目指して、きめ細やかな指導を継続してほしい。 ②学習実態調査により、家庭での生活や学習の状況を把握し、家庭と連携しながら生徒の生活習慣や学習状況の改善を図る。 ③ルールやマナーを守ることはもちろん、自律的に生活することも必要であり、ひいてはいろいろな場面で自立した行動ができるよう、一層道徳の授業の充実を図る。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「自転車の整理」の徹底。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上 「自転車の整理整頓ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上 「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上	「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒83%(+9)、保護者88%(+2)、教職員71%(+8) 「自転車の整理整頓ができている」と答えた生徒85%(+10)、教職員100%(+10) 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒75%(±0)、保護者95%(±0)、教職員93%(+14) 「服装頭髪が守られている」と答えた生徒85%(+15)、保護者95%(-1)、教職員100%(+21)		
		活動計画 ①あいさつ運動の実施。 ②駐輪場の整理整頓。 ③始業前着席の励行。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。	活動計画の実施状況 ①毎朝の教職員、生徒有志によるあいさつ運動を実施した。 ②毎朝交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。 ③教員が授業場所に始業前に行くことを励行した。 ④日常の学校生活において服装頭髪指導を行った。		

総括評価表

平成24年度

徳島県立城ノ内中学校

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価 * () は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化する。 (下位組織レベル) 部活動を活発にする。 生徒会活動の充実を図る。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒91%(+5)、保護者92%(±0)、教職員86%(-9)	総合評価 A (所見) 多様な学校行事は、生徒・保護者から高い評価を得ている。より効果的な実施方法について、改善を図っていくことも必要である。また、部活動や生徒会活動も活発に展開されており、さらに、生徒の自主的、創造的な活動ができるよう指導していくことが大切である。	①特色ある学校行事が多く、生徒や保護者の満足度も高いようだが、形骸化しないよう、今後とも内容の充実に努めてほしい。 ②部活動は、可能な限り高校と連携した指導により、成果を上げてほしい。
		「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒81%(-8)、保護者84%(-3)、教職員78%(-6) 「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒81%(+4)、教職員85%(+32)		
環境教育の推進と防災・安全教育の徹底	(全校レベル) 清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。 (下位組織レベル) ゴミの分別や節電・節水に取り組む。 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。 交通ルールや交通マナーを守る	評価指標 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒78%(+3)、教職員71%(+8)	総合評価 A (所見) 日ごろから、美しい環境作りや節電・節水に対する意識付けをしており、よく実現されている。また、昨年度の反省に基づき、交通ルールやマナーの遵守を強く指導した結果、生徒の意識は向上したと思われる。防災に関しては、避難訓練の実施回数増、施設・設備・備蓄品の充実を図っているが、防災に先進的に取り組んでいる学校に比べると、防災態勢は十分ではない。	①本年度、新学校版環境ISOの認定を受けたことを踏まえ、環境美化、節電・節水、ゴミの分別、リサイクル活動等をより積極的に学校全体で取り組む。 ②生徒・教職員とも地震災害に関する危機意識はまだまだ低い。防災・減災への意識を高め、災害時に対応できる力を育成するために研修等を充実させる。また、生徒の中に防災リーダーとしての役割を担う者を育成していく。 ③交通安全教室の開催、街頭立哨指導を適宜実施することにより、登下校時の事故をさらに減少させる。
		「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒71%(+7)、教職員92%(+2) 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒75%、保護者80%、教職員78% 「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒65%(+32)、教職員71%(+29)		
		活動計画 ①部活動を活性化する。 ②生徒会活動を活性化する。	活動計画の実施状況 ①部活動加入率は1年92%、2年93%、3年83%。(4月末現在) ②生徒会各委員会がそれぞれ計画的に充実した活動を行った。		
		活動計画 ①毎日の清掃活動を充実させる。 ②吉野川堤防清掃活動や学校内外の清掃活動に年3回以上取り組む。 ③防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ④交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。	活動計画の実施状況 ①清掃時の生徒管理を適切に行う。 ②吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施した。(7、10、12月) ③防災避難訓練(火災・地震・津波)を2回実施し、Jアラートによる初期避難訓練を2回実施した。 ④交通安全教室を実施した。また、PTA校外指導部が朝の立哨指導を実施した。		

総括評価表

平成24年度

徳島県立城内中学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * () は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。 (下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。 学校公開の日の実施。 城ノ内祭の公開。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。 ホームページの更新に全ての教員が関わり、週に1度は更新されるようにする。 「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者が70%以上。 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者85%(+1) 多くの教員がホームページを更新し、学校全体として、平均週1回程度は更新することができた。 「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者92%(+1)、教職員100%(+10) 「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒86%(+3)、保護者94%(±0)、教職員93%(-7)	総合評価 A (所見) ホームページの更新ができるように教職員の研修を行い、更新回数を増加させることができた。また、ホームページへのアクセス数や文化祭、学校公開の日のアンケート調査によって、本校を理解してもらう手段として、これらが大きな役割を果たしていることがわかる。各学年では、「学年だより」を毎月発行し、より詳しい情報発信を行うことができています。	①学校を知りたい、見たい、良くしたいは、保護者や地域の方々の願いであり、今後とも、ホームページの更新に努めてほしい。また、安全面など学校教育活動に支障がない範囲内での学校公開に積極的であってほしい。 ②全ての教職員がホームページの更新技術を身につけ、迅速で有意義な情報発信ができるようにする。 ③保護者の関心が高い、生徒の学校生活の様子を「学年だより」を通じて、より詳しく伝えていくとともに、ホームページにも学校行事の様子を、可能な限り掲載していく。
		活動計画 ①ホームページを随時更新する。 ②「学校公開の日」を実施する。 ③文化祭を公開する。 ④スクールガイドの発行。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は214,354回、総アクセス数は928,409回(2004.10.20~2013.2.28) ②学校公開の日への参加者603名。 ③文化祭を公開し、1,823名が来校した。 ④スクールガイドを発行した。		
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。 (下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒87%(+1)、保護者87%(±0) 「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えたと生徒94%(+1)、保護者96%(±0) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者93%(+2)、教職員93%(+4)	総合評価 A (所見) 生徒・保護者からは、本校の教育活動全般に、高い評価を得ていると考えられる。PDCAサイクルによって、より質の高い教育活動を推進していくことが必要である。PTA活動は、各専門部がそれぞれ活発な活動を展開しており、学校運営に対して理解と協力を得ることができた。また、中学校独自の職員会を毎月開催することで、職員の共通理解のもと学校運営にあたることができた。	①次年度で中高一貫教育校となり10年目を迎えるが、これまでの教育活動を検証し、子どもたちが行きたい、学びたい中学校・高等学校となるよう、魅力ある学校づくり、信頼される学校づくりに、中高が協力し合って、一層取り組んでほしい。 ①学校行事等を教育課程内での位置付けを明確にし、統合・精選なども検討した上で、実施方法を改善し、より質の高い教育活動となるようにする。 ②中高合同の会議とともに、中学校独自の会議もあり、高い効果を生み出している反面、放課後の部活動や個別学習への対応に問題も生じているため、会議の精選や運営の仕方に工夫が必要である。 ③次年度は中学校開校10周年にあたるため、学校とPTAが互いに理解を深め、一層の協力体制を構築する。
		活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。 ②定期的に中学職員会や学年部会を開催する。 ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況 ①運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催) ②毎月1回、中学職員会を実施し、職員の共通理解を図った。また、学年部会を随時開催した。 ③中高合同PTA役員会が5回開催され、活発な議論がなされた。		